

評価を変更した項目、評価に当たっての意見がある項目（静岡県公立大学法人 令和2年度事業年度計画）

資料 1

評価を変更した項目（2項目）

No.	中期計画	年度計画	計画の実施状況	自己評価	検証	特記事項 (意見・指摘)																																										
14	<p>学生の薬剤師国家試験の合格に向けた学習を積極的に支援する。</p> <p>〈数値目標〉 薬剤師国家試験 新卒者の合格率90%の維持 (薬学部薬学科)</p>	<p>・第105回薬剤師国家試験(令和2年2月実施)の内容を精査し、教育内容の検証を行う。成績不良者の学力レベル向上を目指した補講を実施し、学生の学力レベルの底上げを図る。</p> <p>〈数値目標〉 薬剤師国家試験 新卒者の合格率90%の維持(薬学部薬学科)</p>	<p>・第105回薬剤師国家試験の内容を精査することで教育内容を検証し、成績不良者の学力向上を目指した「底上げ補講」を夏期・秋期の2回実施した。</p> <p>薬剤師国家試験(第106回) 新卒者の合格率93.67%(薬学部薬学科)</p>	S (SS)	A (SS)	<p>薬剤師国家試験の合格率について、93.67%と数値目標である90%を上回る高い合格率であり計画を順調に実施している。</p> <p>薬剤師国家試験合格状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>静岡県立大学</td> <td>合格者数 78</td> <td>77</td> <td>79</td> <td>81</td> <td>74</td> </tr> <tr> <td></td> <td>受験者数 74</td> <td>81</td> <td>80</td> <td>81</td> <td>80</td> </tr> <tr> <td></td> <td>合格率 94.9%</td> <td>95.1%</td> <td>98.8%</td> <td>100%</td> <td>93.7%</td> </tr> <tr> <td>全国平均</td> <td>合格率 85.1%</td> <td>84.9%</td> <td>85.5%</td> <td>84.7%</td> <td>85.6%</td> </tr> </tbody> </table> <p>合格率の全国順位</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R元</th> <th>R2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>合格率順位(対象:国公立17校)</td> <td>8</td> <td>9</td> <td>5</td> <td>1</td> <td>5</td> </tr> </tbody> </table>	区分	H28	H29	H30	R1	R2	静岡県立大学	合格者数 78	77	79	81	74		受験者数 74	81	80	81	80		合格率 94.9%	95.1%	98.8%	100%	93.7%	全国平均	合格率 85.1%	84.9%	85.5%	84.7%	85.6%		H28	H29	H30	R元	R2	合格率順位(対象:国公立17校)	8	9	5	1	5
区分	H28	H29	H30	R1	R2																																											
静岡県立大学	合格者数 78	77	79	81	74																																											
	受験者数 74	81	80	81	80																																											
	合格率 94.9%	95.1%	98.8%	100%	93.7%																																											
全国平均	合格率 85.1%	84.9%	85.5%	84.7%	85.6%																																											
	H28	H29	H30	R元	R2																																											
合格率順位(対象:国公立17校)	8	9	5	1	5																																											
22	<p>・国際関係学部では、2年次のTOEIC L&amp;R IP テストのスコアにおいて一定の成績を修められるよう英語基礎力の定着を図るとともに、英語ネイティブの教員を中心に実践的な英語力を養成する英語教育を1・2年次に実施する。</p> <p>〈数値目標〉 TOEIC L&amp;R IP テスト目標スコアを達成した学生の割合(※) 800点以上の学生が10%以上 730点以上の学生が15%以上 600点以上の学生が50%以上 ※目標スコアを達成した国際関係学部2年次学生数/国際関係学部2年次全学生数(休学者を除く。)</p>	<p>・実践的な英語力の基礎を固めるため、英語ネイティブ教員が担当する英語による課題解決型授業(PBL)の対象を2年生まで広げて実施する。(国際関係学部)</p> <p>〈数値目標〉 TOEIC L&amp;R IP テスト目標スコアを達成した学生の割合(※) 800点以上の学生が10%以上 730点以上の学生が15%以上 600点以上の学生が50%以上 ※目標スコアを達成した国際関係学部2年次学生数/国際関係学部2年次全学生数(休学者を除く。)</p>	<p>・実践的な英語力の基礎を固めることを目的として、英語ネイティブ教員が担当する英語による課題解決型授業PBLについて、1年生を対象にした科目よりも内容のレベルを上げた科目を2年生に実施した。</p> <p>800点以上の学生12.4% 730点以上の学生26.8% 600点以上の学生64.9% ※目標スコアを達成した国際関係学部2年次学生数/国際関係学部2年次全学生数(休学者を除く。)</p>	A (A)	S (A)	<p>国際関係学部では、英語ネイティブ教員による課題解決型授業(PBL)を導入するなど、実践的な英語力の育成を図った結果、TOEIC L&amp;R IPテストの目標スコアを達成した学生の割合が飛躍的に増えた。</p> <p>TOEIC L&amp;R IP目標スコア達成状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>目標</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>800点以上</td> <td>10%以上</td> <td>5.2%</td> <td>4.6%</td> <td>12.4%</td> </tr> <tr> <td>730点以上</td> <td>15%以上</td> <td>13.9%</td> <td>12.0%</td> <td>26.8%</td> </tr> <tr> <td>600点以上</td> <td>50%以上</td> <td>56.1%</td> <td>47.4%</td> <td>64.9%</td> </tr> </tbody> </table>	区分	目標	H30	R1	R2	800点以上	10%以上	5.2%	4.6%	12.4%	730点以上	15%以上	13.9%	12.0%	26.8%	600点以上	50%以上	56.1%	47.4%	64.9%																						
区分	目標	H30	R1	R2																																												
800点以上	10%以上	5.2%	4.6%	12.4%																																												
730点以上	15%以上	13.9%	12.0%	26.8%																																												
600点以上	50%以上	56.1%	47.4%	64.9%																																												

\* 自己評価及び検証の下段カッコ書きは、昨年度評価結果

評価を変更した項目、課題とする項目、評価に当たっての意見がある項目（静岡県公立大学法人 令和2年度事業年度計画）

評価に当たっての意見がある項目（4項目）

No.	中期計画	年度計画	自己評価の判断理由 (計画の実施状況等)	自己 評価	検証	特記事項 (意見・指摘)																																												
27	<p>・ 社会人、留学生を含めた志願者の状況や入試に関する外部要因の情報に基づく入学者確保対策や学内教育体制の検討、見直しに取り組み、各学科、各専攻の定員充足を図る。</p> <p>大学院については、入学定員の充足を目指した取組を推進する。</p> <p>〈数値目標〉 大学院入学定員充足率（大学院全体） 修士／博士前期課程 100%、 博士／博士後期課程 100%</p>	<p>・ オープンキャンパス申込者数、大学院入試説明会の状況、各種入試志願者数、受験産業の情報の推移を分析し、志願者数向上のための改善を図る。</p> <p>・ 受験生に引き続きオープンキャンパスや高大連携事業の機会に入学者選抜方法、教育方法、長期履修制度などの広報を行う。広報活動を行い、入学者確保対策に取り組む。</p> <p>・ 入学者選抜方法、教育方法、長期履修制度の導入に関する受験生への広報を継続する。</p> <p>・ 令和元年度に引き続き、講義の夜間、土曜日開講を継続し、学生が受講しやすい環境の維持に取り組む。また、学生との意見交換会を通じて受講環境の問題点を確認していく。（経営情報イノベーション研究科）</p> <p>・ 大学院説明会を開催し、他大学及び社会人からの志願者の増加を図る。大学院募集要項の英語版を準備していく。また、志願者数向上並びに社会人大学院生を確保するために、積極的な広報活動を展開する。（薬食生命科学総合学府）</p> <p>・ 入学定員数の在り方について検討する。（薬食生命科学総合学府、看護学研究科）</p> <p>・ 長期履修制度について、看護学研究科で運用を開始し、課題を検証する。また、令和3年度からの薬食生命科学総合学府、経営情報イノベーション研究科への導入に向けた準備を進める。</p> <p>・ 総合型選抜出願者出身校や学校推薦型選抜出願校の推移について分析してターゲットとする高校を選定し、高校訪問等を実施する。（短期大学部）</p> <p>〈数値目標〉 大学院入学定員充足率（大学院全体） 修士／博士前期課程100% 博士／博士後期課程100%</p>	<p>・ 集合形式でのオープンキャンパスを中止し、Web を利用したオンラインでのオープンキャンパスを実施した。模擬講義の動画配信（21 本）や入試相談会、カリキュラム紹介等を行うことにより志願者数の増加を図った。</p> <p>・ <u>出張授業や入試説明会などの機会を通して、入学者選抜方法、教育方法についての広報を行った。</u>（国際関係学部）</p> <p>・ 大学院オープンキャンパスはコロナ禍のため中止し、代わりに論文指導教員による個別の広報活動を積極的に行った。本学サイト・大学院進学情報サイトへの掲載、関連機関への郵送案内、県民日より、ラジオ等により、幅広くメディアを活用した。<u>助産学課程では本学看護学部生を対象とした「助産について語る会(MJ cafe)」（3回/年）、「助産学課程説明会」をオンラインで開催した。</u>また、前述の広報活動時に長期履修制度の開始を告知した。それらにより、令和3年度募集では13 人の受験生が合格し、前年度を上回る結果となった。（看護学研究科）</p> <p>・ 令和元年度に引き続き、講義の夜間、土曜日に開講する体制を継続するとともに、新型コロナウイルス感染拡大に対応してオンラインによる講義を実施する体制を構築し、学生の学びの環境を維持した。<u>2月の修士論文発表会後に大学生との意見交換会を実施するなどを通じて、令和2年度の受講環境における問題点を洗い出し、改善に結びつけることとした。</u>（経営情報イノベーション研究科）</p> <p>・ <u>動画配信による大学院説明会を実施し、他大学及び社会人からの志願者の増加を図った。また、海外からの志願者の増加を図るため、大学募集要項の英語版の準備を開始した。</u>（薬食生命科学総合学府・薬学研究院）</p> <p>・ <u>志願者数向上及び社会人大学院生を確保するため、ホームページを全面改訂した。対面での大学院説明会に代えて、ホームページに大学院説明会で説明予定であった内容を掲載した。また、特に静岡県の試験研究機関を対象とした大学院説明会を行い、社会人大学院生を積極的に受け入れるための広報活動を実施した。</u>（薬食生命科学総合学府・食品栄養科学専攻、環境科学専攻）</p> <p>・ 県内の日本語学校を対象にした研究科案内（入学者選抜制度の説明、研究科の施設紹介、研究分野に関わるQ&amp;A など）をオンラインで2回（5月21日：ACC 国際交流学園、6月18日：国際ことば学院）、対面で1回（10月30日：ACC 国際交流学園）実施した。（国際関係学研究科）</p> <p>・ 看護学研究科博士前期課程は入学定員の未充足状態が続いており、開設時（平成13 年度）からの継続課題であった。対策として、<u>積極的な広報活動や助産学課程における実習施設の開拓、長期履修制度の導入などを行ったが、充足には至らなかった。</u>そのため、看護学研究科委員会で、地域の多様な医療ニーズ及び看護職の教育ニーズにより応えるべく、博士後期課程の開設（令和2年4月）と看護職のリカレント教育の開始（令和3年4月）を踏まえ、博士前期課程の入学定員の減員を検討し、10月の大学院協議会で承認を得た。その後、静岡県と協議を開始し、継続課題となった。（看護学研究科）</p> <p>・ 看護学研究科で導入した長期履修制度について、令和2年度は1人の利用があった。また、薬食生命科学総合学府及び経営情報イノベーション研究科への導入に向けて、規程の制定及び大学院学則改正の準備を進め、令和3年1月1日から運用を開始した。</p> <p>・ 短期大学部では、在校生による母校訪問を実施した。今後、選抜出願校の推移について分析してターゲットとする高校を選定する。（短期大学部）</p> <p>大学院入学定員充足率（大学院全体） 修士／博士前期課程109.9% 博士／博士後期課程95.5%</p>	A (B)	A (B)	<p>大学院の入学定員未充足について、各研究科において学生確保のための様々な努力の結果、改善が見られたが、博士後期課程については充足には至らなかった。今後も引き続き学生の確保に努められたい。</p> <p>入学定員充足状況（大学院）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>課程</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">修士/博士前期</td> <td>入学者数</td> <td>89</td> <td>99</td> <td>112</td> <td>86</td> <td>122</td> </tr> <tr> <td>入学定員</td> <td>111</td> <td>111</td> <td>111</td> <td>111</td> <td>111</td> </tr> <tr> <td>充足率</td> <td>80.2%</td> <td>89.2%</td> <td>100.9%</td> <td>77.5%</td> <td>109.9%</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">博士後期</td> <td>入学者数</td> <td>29</td> <td>41</td> <td>25</td> <td>35</td> <td>42</td> </tr> <tr> <td>入学定員</td> <td>41</td> <td>41</td> <td>41</td> <td>44</td> <td>44</td> </tr> <tr> <td>充足率</td> <td>70.7%</td> <td>100%</td> <td>61.0%</td> <td>79.5%</td> <td>95.5%</td> </tr> </tbody> </table>	課程	H28	H29	H30	R1	R2	修士/博士前期	入学者数	89	99	112	86	122	入学定員	111	111	111	111	111	充足率	80.2%	89.2%	100.9%	77.5%	109.9%	博士後期	入学者数	29	41	25	35	42	入学定員	41	41	41	44	44	充足率	70.7%	100%	61.0%	79.5%	95.5%
課程	H28	H29	H30	R1	R2																																													
修士/博士前期	入学者数	89	99	112	86	122																																												
	入学定員	111	111	111	111	111																																												
	充足率	80.2%	89.2%	100.9%	77.5%	109.9%																																												
博士後期	入学者数	29	41	25	35	42																																												
	入学定員	41	41	41	44	44																																												
	充足率	70.7%	100%	61.0%	79.5%	95.5%																																												

\* 自己評価及び検証の下段カッコ書きは、昨年度評価結果

No.	中期計画	年度計画	自己評価の判断理由 (計画の実施状況等)	自己 評価	検証	特記事項 (意見・指摘)
11	<p>[看護学研究科]</p> <p>・看護学研究科の機能強化を図るために、博士前期課程においては教育機能の検証とともにキャリア育成に係る高度看護実践教育に取り組む。博士後期課程においては、高度な専門的知識の活用のみならず、新たな看護学の知識体系の構築・開発に取り組める研究能力、地域において制度的な枠組みを主導的に構築できる能力を身に着けることができる教育課程の確立を目指す。</p> <p>静岡県の助産師養成の現状、実習施設の状況、教育体制などを総合して評価し、教育の拡充を図る。</p>	<p>[看護学研究科]</p> <p>・令和4年度開始を目指した新たな高度看護実践教育の内容について明確化を図る。</p> <p>・令和2年度開始の博士後期課程当該学年のカリキュラムを実施する。</p> <p>・令和元年度開始の助産師養成課程の新カリキュラムを引き続き遂行する。</p>	<p>・看護学研究科委員会で、地域医療の多様なニーズ及び看護職の教育ニーズにより応えるべく、看護職のリカレント教育の拠点となる「看護実践教育研究センター」を設置することについて検討した。教育研究審議会、経営審議会及び役員会の承認を得て、令和2年12月に「看護実践教育研究センター」を学部を設置した。さらにセンターにおける取組事業として令和3年4月より「特定行為に係る看護師の研修制度」を開始するべく厚生労働省に指定研修機関の認可申請を行い、2月末に「承認」の結果通知があった。2月に令和3年度受講の選考試験を行い1人を合格とした。</p> <p>・令和2年度に博士後期課程入学生2人を受け入れ、カリキュラムの運用を開始した。1科目の開講時期が遅滞したが、その他は計画通りに実施した。</p> <p>・現行の助産師カリキュラムにおける完成年度を滞りなく推進した。</p>	S (A)	S (A)	<p>看護職のリカレント教育の拠点を目指し「看護実践教育研究センター」を令和2年12月に設置し、令和3年度から特定行為に係る看護師の研修を開始した。今後も現役の看護職の学びの拠点となるよう、教育内容の充実を図りたい。</p>
29	<p>・アドミッション・ポリシーに沿った入学者を確保するために、高大接続改革へ対応するとともに、試験科目・出題方法を含めた全学的な入試体制の整備や改革を行う。</p>	<p>・新たに導入するWEB 出願システムについて、関係部署と協力の上、受験生にとって利用しやすくかつ事務の負担が軽減されるように運用していく。また、入初年度のため、関係教職員に対しWEB 出願システムに関して説明・周知し、テストランでは、入試時に支障の出ないよう十分な確認を行う。</p> <p>・作問・点検・精査の体制を更に見直すとともに、点検システムの強化を図るなど適正に入試を実施できるよう全力で取り組む。</p> <p>・高大接続改革(入学者選抜改革)に対応して新たに設定した出願書類及び評価基準について、全学で共通の認識を持って、選抜を実施する。 (短期大学部)</p>	<p>・Web 出願システム導入について、最終確認及び試行テスト等を関係部署との情報共有を密に行いながら実施し、11月出願の入試から運用した。初年度のため、実施上の諸問題を解決しながら運用した。その結果、受験生や高校教員の利便性が高まり、記載ミス等が減った。</p> <p>・作問・点検・精査については滞りなく進んだ。令和2年度から理科学科について業者による事前点検を導入し、点検システムを一層強化した結果、出題ミスを防いだ。</p> <p>・短期大学部では、Web 出願の導入に当たり、手続き方法を本学ホームページで事前に周知の上、高校を通じて連絡するなどを行い、出願期間に間に合うよう細心の注意を払った結果、滞りなく出願を受け付けた。</p> <p>・短期大学部では、試験問題の点検、精査を制度化し、より適正な実施に努めた結果、出題ミスを防いだ。</p> <p>・高大接続改革入学者選抜改革に対応して新たに設定した出願書類及び評価基準について、以下の取組を行い、全学で共通の認識を持って選抜を実施した。</p> <p>・総合型選抜：一部学科において従来1回だった面接を2回としたほか、志願者本人の学習意欲への影響を考慮して、出願時期及び合格発表時期を昨年度から約1か月半ずらした。</p> <p>・学校推薦型選抜：推薦理由書の様式を変更し「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学習する態度」に関する評価についての記載を求めた。新たに志願者本人記載の大学入学希望理由書の提出を求め、本人の意欲等の判断や多面的な評価に役立てた。(短期大学部)</p>	A (B)	A (B)	<p>平成29年度から令和元年度まで、出題ミスを原因とする入試ミスが3年連続で発生していたが、令和2年度は、外部の事前点検を導入し点検システムを一層強化した結果、再発を防ぐことが出来た。</p> <p>入試ミスは受験生に影響を与え、大学の社会的評価にもつながるため、今後も適正な実施に向け、組織的に取り組むことを望む。</p>

No.	中期計画	年度計画	自己評価の判断理由 (計画の実施状況等)	自己 評価	検証	特記事項 (意見・指摘)
37	<ul style="list-style-type: none"> <li>学生の意見を定期的に聴き、学習環境や生活支援体制の充実を図る。</li> <li>民間企業や各種財団へ支援を依頼するなど奨学金の確保を円滑に進める。</li> <li>学生の自主的な社会活動を奨励するため、クラブ・サークル、委員会、ゼミ等の活動を支援する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>随時、学生の学修に関する相談や意見を聴くとともに、クラブ・サークルの学生や留学生との意見交換会を定期的に開催して学生のニーズを把握し、学習環境の改善に取り組む。</li> <li>学生への奨学金制度の案内の充実を図るとともに、学部・研究科への通知や奨学金の案内を学生の目に留まるような場所に設置して周知することで奨学金への応募を促す。また、各種の財団及び企業等へ訪問するなどして奨学金の採用機会を増やし、奨学金確保に向けて取り組む。</li> <li>特定基金を利用した学生支援を実施する。</li> <li>学生の意見・提案を収集する窓口の一つとして「学生のこえ」を継続設置するとともに、必要に応じて学生の修学環境の整備・改善を行う。(短期大学部)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍において、柔軟に学生対応を行い、随時、学生の学修に関する相談や意見を聴くとともに、クラブ・サークルの学生や留学生からの意見を取り入れ学修環境の改善に取り組んだ。</li> <li>学生への奨学金制度の案内の充実を図るとともに、学部・研究科への通知や奨学金の案内を学生の目に留まるように複数回案内を行い周知することで奨学金への応募を促した。コロナ禍で学生室への来室が限られたり、人の滞留を避ける必要性から、学内システムを利用して周知した。また、各種の財団及び企業等へ訪問するなどにより奨学金の採用機会を増やし、奨学金確保に向けて取り組んだ。</li> <li>内西いよ子基金による薬系大学院生への給付型奨学金制度により、生活支援及び学習環境支援を行った。薬学専攻博士課程1年の大学院生3人に奨学金が授与された。e-learningシステムを導入し、オンラインでの自己学習システムを整備した。</li> <li>新型コロナウイルス感染症による学生支援等のため、おおぞら基金への寄附を学内外に幅広く呼び掛けた結果、175人から総額6,594千円を受け入れることができた。これを原資とし、修学支援緊急奨学金の給付及びボランティアセンター活動への支援を行った。修学支援緊急奨学金では、コロナ禍で生活が困窮している学部生及び短期大学部生を対象とし、1人当たり5万円を68人(総額3,400千円)に給付した。ボランティアセンター活動支援では、コロナ禍で困窮している学生に対して継続的に生活支援物資を供給する「たべものカフェ」を実施し、684千円を支援した。残額については、令和3年度に引き続き支援していく。</li> <li>教職員からの寄附を原資とした、はばたき寄金を活用し、貸与型奨学金として1人当たり5~10万円を14人(総額1,300千円)に貸与した。また、実習に参加する看護学部学生などを対象としてPCR検査経費を7人(総額108千円)に支援した。</li> <li>短期大学部では、学生の意見・提案を収集する窓口の一つとして「学生のこえ」を継続設置しているが、投稿件数は0件であった。</li> </ul>	S (A)	S (A)	<p>新型コロナウイルス感染症の影響を受けた学生の支援を目的に、学内外に寄付を幅広く呼びかけ、約660万円の寄付を集めた。</p> <p>この寄付金を活用し、奨学金制度の拡充や学生ボランティアが困窮する学生に食材と交流の場を提供する「たべものカフェ」への支援など、迅速な対応を行った。学生の満足度向上に向け、学生支援をさらに充実されたい。</p>

## 検証後の集計結果（静岡県公立大学法人）

		評価対象 項目数	評価委員会検証					法人自己評価				
			SS 計画を大 幅に上回 って実施	S 計画を 上回って 実施	A 計画を順調に 実施	B 計画を十分 には実施し ていない	C 業務の 大幅な見直 し等が必要	SS 計画を大 幅に上回 って実施	S 計画を 上回って 実施	A 計画を順調に 実施	B 計画を十分 には実施し ていない	C 業務の 大幅な見直 し等が必要
教育 研究 等	1 教育	41	0	5	36	0	0	0	5	36	0	0
	2 研究	12	0	3	9	0	0	0	3	9	0	0
	3 地域貢献	8	0	0	8	0	0	0	0	8	0	0
	4 グローバル化	5	0	0	5	0	0	0	0	5	0	0
	合計	66	0	8 (12.1%)	58 (87.9%)	0	0	0	8 (12.1%)	58 (87.9%)	0	0
法人 経営	1 業務運営の改善	7	0	0	7	0	0	0	0	7	0	0
	2 財務内容の改善	3	0	0	3	0	0	0	0	3	0	0
	3 施設・設備の整備、活用	1	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0
	合計	11	0	0	11 (100%)	0	0	0	0	11 (100%)	0	0
自己 点検	1 評価の充実	1	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0
	2 情報公開・広報の充実	1	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0
	合計	2	0	0	2 (100%)	0	0	0	0	2 (100%)	0	0
そ の 他	1 安全管理	2	0	0	2	0	0	0	0	2	0	0
	2 社会的責任	3	0	0	3	0	0	0	0	3	0	0
	合計	5	0	0	5 (100%)	0	0	0	0	5 (100%)	0	0
総合計		84	0	8 (9.5%)	76 (90.5%)	0	0	0	8 (9.5%)	76 (90.5%)	0	0